

口成同志會々報

號 一 第

編輯兼發行者

大阪市北區堂島濱通三丁目
阪大齒科教室内

口成同志會
責任者 藤原太郎

大阪府北區都島本通二丁目五
印刷者 魁新堂印刷所
電報川三四六四番(西六七六八)

歡喜・感謝・報恩

- 一、聲を有たずに生れた闇の世界から聲を惠まれて光明世界に更生した歡喜に強く明るく生き抜きませう。
- 一、この歡びは父母の熱愛と阪大醫學部齒科學教室諸先生の献身的御研究獨特の技術並に御指導の賜なる事に心からの感謝を捧げませう。
- 一、發音練習を怠らず發音上普通人に互して遜色なきまでに一層の努力を續けませう。
- 一、我等の過去と同じ惱みを持つ人を一人でも多く救ふ爲めこの歡びを普く同患の人に知らせませう。
- 一、立派な心身を鍊成して各職域に精勵し皇國に御奉公する事を報恩の萬一と心得精進致しませう。

(編 輯 子)

口成同志會の成立經過

諦めてゐた吾々が大阪帝國大學醫學部齒科教室で整形手術、發音指導を受けて聲の世界に更生する事が出来る事の出来ぬものであります。而もこの整形手術は世界唯一の御研究であり、手術後の發音指導も、當教室獨特であり、或は手術に或は研究に御疲勞をも厭はれず御熱心に御指導下さる先生の御熱誠に感激して、同志諸君は共に此の御恩返へしにも立派な皇國民として更生を望ふものであります。

最初無聲の闇から聲の光明世界に更生しその歡びを一入深く味つた年長者松原氏を中心に當時入院中の田中氏、西村氏、隈部氏、尾谷氏等相談して有志相寄り會を組織して、發音練習は勿論、今後社會進出に際しても相扶け、相助まして國家有爲の人となるべく、且つ此の歡びを味へないでゐる人々を一人でも多く救はねばならないと烈々の議が續まり、會長先生並に永井先生の御了解を得て會で當教室にて整形手術、發音指導を受けられたる人々又は父兄にその

趣旨を通知して六月二十日午後四時半に阪大齒科に参集を願つたのでありました。

六月二十日
聲の世界に更生し、先生の徳を慕ひ近郷から集まれた方約五十名永井先生を中心に同病院の講堂で協議を開きました。最初有志代表として松原留吉氏が完全な發音で、聲の世界への更生の歡と先生の徳、同志會組織の趣旨を述べ一同感慨深く感銘。

次いで平松氏、吉良氏外數氏先生の徳を稱へ會成立に滿場賛意を表し會名を協議の結果、口成同志會とし茲に芽出度く我口成同志會は誕生したのであります。

永井先生の御挨拶を頂き毎も乍らの御熱心な口調で會員を激勵して下さいる御顔は會員やその父兄には慈母観音の様に輝いて見えました。

會會長先生も御忙しい他の會合を御都合つけて御出席下さいまして御慈愛の籠つた御祝辭を頂いて出席者一同感激致しました。

それから一同總會の事や今後會の事業について、或は入院當時の感想や、退院後の歡びを交々話し合つて後記念撮影をなし夕景美しく散會した事でした。

口成同志會の誕生を祝ふ

會員 西村 一路

大東亞戰に帝國の偉なる戦果の少調に併はせて
この秋、この機に未だ曾つて無き
盛り上る火の玉、即ち口成同志會の誕生した事を心からお祝ひ致します。
社會の文明がぐんぐん明るくなる
如く、新生の意氣に燃え立つのをどうして感謝せずに居れませうか。

この「新生の意氣に燃えて」
これこそ不朽の生涯の言葉として
常に胸中深く抱くのであります。忘
れられぬ五月十一日晴れの退院の日
そして長らく激勵の眞剣の道場とし
た恩師の部屋へ、溢れる感激に咽び
つゝ添筆をお頼みしたのが、この實
葉でした。

一生の想ひ出がこの實葉によつて
物語る様に只今大事に保存して居
ります。

今後とも愈々難關で踏み固つて居
られる方々を、幸福な人生に導く口
成同志會の旭日昇天の勢で光輝く榮
はしき會とならん事を信じ且つ他郷
の空より祈り積けるものであります
口成同志會會員御一同様の御健祥を
御慶とび申す。

御慶とび申す。

口成同志會々誌發刊に序して

醫長 弓倉先生

此度口成會々員諸君が相集まつて雑誌を發行されるので私に何か序文でも書けとのことである、然し考へてみると難かしい文句を並べるよりも平易に私の思つてゐた事を先づ初巻の巻頭に出して頂いてをく方が後私に何かの時又本書を編いて昔を偲ぶ縁ともなるので一度口成會開會の時に申しあげたことをも記してをきたいと思ふ、それで私の端書の内容を



弓倉繁家博士

實を通れたいと考へてゐる。

私が齒科を志して其の方面を多少共注意をしたのは醫學生としての第二年目であつた、學校に齒科の講座がなかつたので其れと關聯の最も深い外科、耳鼻咽喉科方面にも自然に興味が出て來たものである、特に口腔内の疾病や發育異常の様なものにはより一層觀察を怠らぬ様にした。丁度其の時分の事であつた、分科の講義中に口蓋破裂や鬼唇の條項に出會つたのは、而も其れが私の腦裡を離れようともせず其の發生原因や形態やらを書中に漁り其の胎生期

中の發生機轉を如何にも感心して讀みふけり何んだか一度に傑物になつた様な氣がしたものである、然し更に進んで其の補綴療法や手術の結果やらを見て感心もし又感心もしたものである。特に卒業後耳鼻咽喉科で修業してゐる間に自分で手術をしてみたり又外科で見學した事もあつたので如何に困難な疾患で發音異常を伴ふものであるかを知つた。獨り手術が困難であるばかりでなく手術後の發音も全く完全になると言ふことは殆んど不可能なことであり一寸望み得ない様な氣がした。勿論手術後の發音練習が缺くべからざるものであることは當時とても明であつたのもかゝらわらず全く行はれてゐなかつた様である。手術は爲難しでも必要を發音等に對しては醫者は興味を持つていなかつたのである。即ち局所は先づ結合治癒しても不完全の會語は尙障礙のまゝ残つてをた状態であつた、實に本異常は人類の全層を通じて發現するものであるだけ私の心を痛めたことは一度や二度ではなかつた。

其の様なきことが自分で會得する様になつた時は既に齒科専攻をやつてゐた、然し此の疾病に對し何んとか私の一生中に多少とも解決がつけたい結末まで行かずとも一定の大進歩をもたらしたいと思つたのである。が私の之の問題を研讀したいと思つてゐる時一方私が初代になつた大阪帝大齒科教室の方も愈々多忙になつて來た、其れで實は困りぬいていたのである。丁度其の時分に私の齒科の講義も閉き卒業後小澤凱夫教授の處で分科を専攻せられた我が最も敬愛する永井博士を齒科に迎へることが出來た、永井博士は大變優秀な成績で出られたのであつたが外科へ行かれてからは更に其の特徵を發揮されて醫局員中でも常に光つてゐられた一人であつた、其の永井博士が更に東都に數年齒科を専修し歸阪後當教室に助教として正式に就任されたのは其の後間もないことであつた。

永井博士の東都滞在中も歸阪後も私は絶へず「口蓋破裂症の治療を計るは我等口腔方面にたづさわるものゝ盡さねばならぬ」ところであり且私が一生涯力を入れてやつてみたいと思つてをた事ならぬのですが諸事多忙で手が其處迄とゝかない君が此の方面に手を染めてもらへば鬼に金棒である上自分としても眞に有難いことである、と申述べてをたのである。處が永井博士が欣然として之の方面に研究の歩を向けることになつた、で私は天にも昇る心地して實に筆紙に盡せぬ喜びを覺へた、眞に有難く感じたのである。之れで私の初志、第二の念願が貫徹されたと思ふべきだ。今では永井博士と共に

之の方面に研究の歩を進めるべく科學研究費をも多額に頂くことになつた。一方不遇にかこたれつゝある世の不幸なる方々に一路の光明をも得て頂きたいと一生懸命我等の使命達成に邁進しつゝある次第である。本症の完全治療は手術の改良練達にのみよるものでなく正常發音の練習が必要である。之れが他の手術と異なる處であり又最も特異とするところである。私の元來の主張も此處にあるのである。永井博士は實に熱心に夏の日永に燈のついてからも尚運く迄患者の爲に發音練習にいそしんでゐるのを再々見受けた。他に例のまれにない熱心なる練習である。其の結果他の臨床で容てなき良好なる發音を聞き得るばかりでなく實に患者が相集つて同博士に對する感謝の記念をも含む口成同志會なる會合を組織されるに至つた。日本廣しと言へども他に例は少ないことだと確信する。これも永井博士の熱心の賜と言はなければならぬ。自分としてはかゝる患者の感謝の發露により出來上つた、そして未だ此の方面ではかゝる會合の嚆矢である本會の成立の一端をも記すと共に我等醫人としての之の上もなき喜びと從つて來る責務の更に大なるものあるを痛感する次第である。

終りに我が一生を通じての第二の念願が私の最も敬愛する永井博士により達せられつゝあるを欣び手術を受けられたる御本人は元より御家族御一同の御多祥を祈ると共に本會に永く幸多かれと希ふものである。以上

漢文朗讀

會員 平松 昂

或日の漢文の時間に山田先生が教壇に立つと、「上手に讀めなかつたら何度でも讀ます」と云つて眼鏡をきら／＼と光らせ教室を一わたり見廻はして、急に「平松君」と呼ばれた。僕は大きな聲で「はい」と云つて、寶祚無窮の課を開けて「天祖既命群神平定下土」と讀み初めると、聲は室内に響きわたる。だん／＼と讀んで終りの「嘗與天壤無窮矣。まで我ながら誠に氣持よく讀んで席に着くと、「よく讀めた」といつになく先生が大へん褒められた。

此の文章は随分讀みにくくて、友達は皆困つて居たのに、こんなに褒めていたゞいて全く嬉しい事だ。それにつけても、若し口の手術が成功して居なかつたら、とても人前で讀むことは出來ないのに……去る二月十八日第一回採糸の日の感激がまざ／＼と胸に浮び永井先生の御恩が今更のやうに身にしみる。

口成同志會々誌創刊に寄せて

永井先生



士博巖井永

此の度口成同志會が成立し、いよ／＼その會誌が発行される事になつた。本會が一部志を同じくする人達の熱情によつて成立し多くの人達の賛同によつて益々盛になりつゝあるの拜見して本會との因縁淺からざる私にとつても慶びに絶えないものがあり、感慨深いものがある。否私の一生にとつて忘れ難い大きな感激であるので私は今こゝに次々私の頭に

患の電氣診断に「クロナキシー」を應用する事に夢中になつてゐたので脳脊髄外科に少なからざる興味を感じてゐた。従つて齒科、口腔外科を専攻する様になるとは夢想だにしなかつた事だし、のみならずどういふものか、口腔領域の手術も餘り好きでなかつたので一生涯此の方面の手術には手をかけまいと、折角の小澤教授の此の領域の手術の場合にも他の仕事に夢中になると云ふ具合で拜見する機会も少なかつた様な状態にあつたからである。従つて弓倉教授から小澤教授を通じて私に齒科、口腔外科を専攻する様にお話のあつた時、自分の一生の仕事として興味を持つてゐるか否か疑問だつたので一應は辭退した事もあつた様な次第であるがその時弓倉教授から何でも一生懸命にやれば自然興味は湧いて来るものだ云ふ様なお話もあつたり、自分としても當時一般醫學を修めた人達の多くが好きでなさうな、又自分の一番好きな領域に飛込む事に私の當時抱いてゐた人生觀の一部にピッタリと來ない事もなかつたにも拘はず遂に私が一番好きでなかつた仕事に一生を捧げる事になつた。それから弓倉教授の下で齒科口腔外科を修める様になつてからも元々發音に關する素養もなかつたし

靜かに机に向つて眼を閉ぢてゐる時、電車に乗つて黙想してゐる時、鼻で紙を振ひ疲れて憩ひの一時私はよく同志會の方々の事を想ひ會員諸君とめぐり合せた縁と云ふものに就いて考へる事がある。と云ふのは私の場合には弓倉教授のお話にあるのは異なり初めから齒科、口腔外科専攻が志望でなかつたからである。少くとも私が小澤教授の下で外科學を修めてゐた當時は専ら腦脊髄神經疾

自分自身口蓋破裂が齒科、口腔外科領域でその重要な位置を占めてゐるとは考へてゐなかつたが段々と日が経つにつれて弓倉教授のお話の様に發音の恢復と云ふ事を併せ考へると仲々困難な仕事だと感じる様になり而も此の疾患は我國のみならず歐米各國の統計を見ても殆んど一様に千人に一人位の割合にあり、従つて日本總人口を一億とすれば我同胞少くとも十萬人の人々とその家族が此の疾患の爲に如何に悩まされ、又それ等の人々が如何にその爲に自分の一生の力を充分御國の爲に捧げる事なく淋しく一生を終らなければならぬかと云ふ事に考へ及んだ、之は何ともしなければならぬ仕事だと云ふ事を深く感じる様になつた。

その頃更に此の仕事に熱中しなければならぬ動機に出喰わす事件が起つた。私は今尚それを思ひ出す度に毎にその動機に感謝し、その動機を興へて下さつた方に感謝の念を禁じ得ない。それは約八年間の間にかもされた事件であつた。私が未だ外科醫となつて間もない頃Sと云ふ方の産れて間もない赤ちゃんの手術を託された事があつた。

その赤ちゃんも兎唇に口蓋破裂を伴なつた相當高度のものだつた。年齢的關係で兎唇だけ手術して口蓋破裂の方は數年後にと云ふ事では手術は終つた。兎唇の手術は相當好成績と云ふ状態だつたので兩親の信頼を博した爲か口蓋破裂の手術も七年後小

然し勇氣を振つて第二回目の手術を行つた。今度はどうやら目的を達した様であつた。勇んで第二回目手術に取かゝつた。之も幸ひ成功だつた。第三回目、第四回目と回を重ねるに従ひ薄紙を割く様に段々發音恢復に對する理論が確かさを加へて行つた。考へ考へて眠られぬ夜が續いた。幾度か夢の中で手術をやり、失敗に沈む自分を見出した。部屋が暗が、電車の窓が、手術場のタイルまでが口蓋に見える様だつた……。私は今諸君の口から出る立派なアイウエオの發音を聞く毎にS氏の七年間の未熟な私に對する御信頼に心から感謝し、理論の未確定な時に手術を託された犠牲的精神に滿腔の謝意を表してゐる。

斯の様に手術される立場の諸君と手術する方の私との結びつきが出来たわけでも何かの縁と云ふものであらうとおりに觸れて感じる次第である。

會員諸君の大多數は手術前とは比較てならぬ程立派に聲が出る様になつた人であり、又なりつゝある人である。然し立派な聲が出る様になつた……それだけで満足してよいのであらうか？、諸君が今日までになつたのは全く御兩親の深い愛憎の結實であり又現代醫學の賜に外ならない事を深く胸に刻み込んでおく必要がある。試みに諸君にあの手術日の事

學校入學までには是非にと希望され自分もその積りで約束しそのまゝお別かれしてしまつた。それから何年か経つて私は齒科學を修め東都へ内地留學を命ぜられ、再び母校に歸つて來て間もない頃或日偶然路上でパツタリS氏に遇つた。S氏の側には丸々と可愛い少年の姿があつた七年前の赤ちゃんも既に七歳の割々しい少年となつて私の第二回目の手術を待つてゐた。私はずつかり當惑した。私は何の自信もない自分を尋ち、七年間の不勉強を悔いた。安受合ひした從來の手術方法を今の自分として採るには餘りに自分の良心が許さなかつた。發音の治らない手術方法……それで満足してよいのであらうか？、それをそのまゝ行つてよいのであらうか？、泥棒をつかまへて繩をなふとはどう云ふ事を云ふのだらうと思ひ乍らあらゆる書籍を漁つて見た。あちこちの専門家を訪ねて行脚しても見た。然しそれに酬ひられたものは發音恢復に對する語の解答であつた。

結局自分で發音の機構から研究し歩を進めてゆくより仕方がなかつた。並ならない弓倉教授の御指導と御鞭撻とその他醫學部、理學部の諸先生方の御協力に感謝し乍らどうやら少しづつ、光明が見えて來た様であつた。然し全力を注いで行つた第一回の手術は不幸にも失敗に終つた。大きな失望と信頼に對する申譯けなさは泣いても足らぬものがあつた

(以下四面へつづく)

(三面のつゞき)

を想ひ出してふ事にする。手術室の外では諸君の御両親が自分の壽命を縮めても手術の成功を祈つておられる……手術室の中では手術に携はる先生方三人が緊張した眼を光らせ乍ら兩手の指三十本を只黙々と動かしてゐる……その手術室に近く一人の看護婦が次々と手術の進行につれて必要な機械をさばいてゐる。それを又一人の看護婦が一生懸命助けてゐる……都合僅々指二三本しか入らぬ口腔の手術に五十本の指が全力を集中して動く。この指一本に故障があつても手術の結果に影響する。

手術法から考へて見ても勿論之は自分達だけで考へ出したものではない。何十年も前から何十人、何百人の先輩達が辛苦、工夫、研究を重ね更に之を基礎にして弓倉教授の指導下に教室員の並ならぬ努力により考案されたものである。斯く考へると與へられた會員諸君の聲は自分の聲にして自分の聲に非らず、全く神より與へられた聲と考へるより外はない更に又過去二ヶ年間に我齒科教室に手術を希望して来院されたものは二百五十餘名に達しその中で手術を終了したものは三分の一に足りない。その他の方は病室の關係その他で入院を期待してゐる状態である。又殊に現在の如き國際状態に於ては醫學は各個人の爲に病を癒すと云ふよりもむしろ國家のお役に立たせ

る爲に病を癒すと云ふ方面に向つてこそ眞の目的を達し得るわけであつて、既に私達も國家のお役に立ちさうな人から先に手術を行ふと云ふ方針をとつてゐる。斯う云ふ點から考へても諸君は選ばれた一人である事を自負して精進しなければならぬ申すまでもなく我日本は大東亞共榮圈建設の大偉業を爲す爲に全力を傾けてゐる。敵米英を打倒するまでは如何なる辛苦にも耐え各自各々その全力を擧げて御國に盡さねばならぬ。幸ひ我會員の一人西村君は去月廿四日自出度く大君のお召しにより應召し新生の意氣に燃えて奮闘しつゝあり。更に第二、第三の西村君が諸君等の中から出る事も間近の事であるが、直接應召されない方々も夫々その職域で力強く御奮闘の御様子で誠に慶びに耐えないものがある。

私は諸君の口から出る素晴らしい聲を聞く毎に素晴らしく朗らかになり、何物にも代へ難い幸福感和感激に打たれる事もあるが、又逆に今少し自分に才能があつたなら、或は今少し自分が精出して勉強したならもつと諸君の聲が立派になつたらうにと相濟ない感じがして益々精進しなければならぬと思ふ事も妙くないが、諸君の方でも發音の訓練は一日もおこたつてはならない。五十音が完全に出来るにかゝらず日常の會話が充分に行かないのは各自の精進の不足を意味する。結局現在に満足

しては最早進歩は停止して上達しない。之は諸君等の優れた先輩の日々の精進振りから見ても明である。又口成同志會の會則にもある様に會員は自分一人が上手になれば足りると云ふに非ずして後輩を導き相携へて御事公に精進すべきは勿論である。それが即報恩を意味するからである。

最後に私は諸君の中から一人でも多く御國の爲に役立つ人、偉い人物の出る事を祈つて止まない。

「附記」
私達が現在行つてゐる手術方法は勿論弓倉教授の御眼と熱意溢れる御指導御鞭撻と全教室員協力に依つて組立てられたものであるが、他面育ての親外科小澤教授並に見貫分たる清水助教の御訓育に負ふ所も少くない。又發音機構の研究に關しては醫學部梶原教授、理學部林、植月兩助教の御指導を賜つた事も忘れず、併りて感謝の意を捧げる。

(昭和十八年一月十八日認)
會員 篠原 太郎
昭和八年七月長男を儲けた喜びは瞬時にして悲嘆のどん底に突き落されましたが、幸に救の神に見放され大阪大小澤外科に入院することを得て清水、永井兩先生の手術によつて更生！ほんとに更生することを得ました、此時の苦惱と歡喜とは今尚腦裏に焼き付けられてゐます。

此時以來先生に對する感謝と醫術の御手腕に對する信頼とは心中では完く子供の全生命を御あづけしてゐたのでした。

途中清水先生は獨逸御留學、水井先生は内地御留學で頼る先生は大版に居られなくなつた時の私共、全く神に見放されたかの如く悲嘆に暮れましたが、幸子供の學齡の前年に永井先生が弓倉齒科に御歸へりになつて私共一家は再び光明に滿されました。

昭和十四年七月私が北支皇軍慰問の旅に出發する前に子供は弓倉外科に入院を許され愈々永井先生の手によつて第二回目の手術をして頂きました。許されて手術の現場も見せて頂きました。あの小さな口腔をよくもこんな細かな手術が出来るものかな、神技と云ふのはこれを云はずして何をか神技云はん。先生のお交を神とも佛とも拜し後を託して北支慰問に出發しました。

永井先生多年の御研鑽による「聲を授ける醫術」と醫長先生始め教室の諸先生の御熱心なる治療とにより吾が子の聲の更生に重なる歡喜に涙したのは丁度北支慰問の旅を終へて歸つた八月末の事でありました。

それ以來發音練習に御忙しい中を汗を流しての御指導により遂に先づ人並みの發音が出来る様になりました。

昭和十七年八月第三回目に整形手術を御願して愈々親として子供に對する義務を果して行く歡びに浸つてゐます。子供も今は國民學校の三年生になりましたが一番心配してゐる國語が優を貰つて来て居ります。これ偏に先生の御恩と感謝して居ります、と同時に今後御國に御事公の出来る人間に育て上げる事によつて、先生への御恩返へしの萬一と心得折角精進してゐます。

日向を耕す人と思はれず

永井先生主に頼まらる

術を御願して愈々親として子供に對する義務を果して行く歡びに浸つてゐます。子供も今は國民學校の三年生になりましたが一番心配してゐる國語が優を貰つて来て居ります。これ偏に先生の御恩と感謝して居ります、と同時に今後御國に御事公の出来る人間に育て上げる事によつて、先生への御恩返へしの萬一と心得折角精進してゐます。

「昭八年句帖より」
長男 川生
短か夜やその盛ぶ聲も男の子なる
吾子の運命を嘆く
晴け曇し吾子のさだめを閉し位く
胡胡に吾子のさだめを悲しみぬ
小澤外科に入院
命なきを幸と願ひて明け易き
手術に更生
命なきをと願ひしを私ち蝶を聞く
手術着の白衣すがしく拜みけり
(昭和十四年句帖より)

許されて手術場に入る
稲妻の光るに似たりメス走る
兩手の妻救世觀音に似てすがし
永井先生の發音練習を受く
首傾しく鸚鵡に焦れて汗握る
發音次第に正し
涼しさや七年振りに松の聲
朗讀に餘念なき兒や秋燈下

日向を耕す人と思はれず

永井先生主に頼まらる

日向を耕す人と思はれず

永井先生の輝く業績

(昭和十七年一月二十九日大阪毎日新聞所載)

言葉贈る手術

見事健兵を生む

阪大歯科教室の感慨

「言葉贈る手術」見事に奏功し立派な勇士が生れた——阪大醫學部附屬醫院齒科學教室ではかねて助教永井巖博士を中心に先天性口蓋破裂症(俗にいふ鬼唇の強度のもの)治療法を研究、特に唇腭障害の矯正に重點をおき理學部物理學教室の協力を得て言語矯正の一新法を完成、多數の患者に施術して成功を収めつつあるが、はからずも昨年二月徴兵検査を前に訪れた一患者に苦心の施

この口で勝鬨

「續く喜び」われは兵士

手術で「聲」を得た西村君

(昭和十七年十二月二十四日大阪毎日新聞所載)

「お母さん」と呼んでも「アーサーン」としか發音できなかった青年が整形手術によつて言葉をとり戻して更生、造兵工として働くうち夢にまでみた「赤紙」をうけた、もう不具者ではない立派な皇軍の勇士だ——感激の涙とともに廿三日、阪大齒科助教永井巖氏へ一通の速達が届いたが、それにはかうした新篇「石に咲く花」物語が秘められてゐた。

で去る四月難症の手術をうけ普通人とかはらぬ正確な言葉を得て造船所で感激のハンマーを揮つてゐた熊本市東外坪井町一四四西村一路君へ晴れの赤紙が来たのである。

かつては啞者と指さされ世をなげいた青年が一死奉公の機会を得た感激は想像以上に大きいものがあつた

召された警れに身をふるはせて「ささやかな男の存在を國家のお役に立つまでにして下さつた先生に何とお禮を申し上げていいやら……」とわが口腔外科の勝利をたたへ應召のうれしさに包み切れぬ感激にふるふ同君の心を傳へ手紙には

(前略)もしも戦線の花と散りましても御稔威萬歳、はたまた永井先生萬歳をきつと叫んでみせます(後略)

と述べられてをり雄々しい決意を語つて結ばれてゐた、おそらく難症の口蓋破裂症の青年でありながら見事回生して戦線に立つのはわが國で同君が初めての例であらう

永井助教は感激して語る
西村君の手術が終つて退院の際、新しい人生の出發に何か一言と鑑はれ私は「新生の意氣高らかに」と彼のノートにかきつけてはなむけとしました、いまそれが本音に實現して皇軍の一兵士として召されて行くこと喜びをもちたされ醫者としてこの手術が大きく國家に繁りあるをひしひしと感じまことに

喜びにたへません、多くの不幸な人たちにこれが明るい勳みとなると思ふと同君の征途を慶祝せざるを得ません

「死」で御奉公 西村君の感激
喜びの西村一路君は勤務先の長崎造船所から廿日歸省、熊本市外東坪井町の自宅で木工商を営む父親末喜さん(五〇)母親喜喜さん(四九)ほか姉妹五人に取圍まれ一家揃つて大喜び廿三日同君を訪れると一路君は普通人と同様にはきはきした口調でつぎのやうに語つた

小學校時代は言語が普通でなく總ての點で大いに不自由でしたが永井先生のお蔭で余治し廿年間の苦しみから一度に救はれ晴のお召をうけることになつた喜びはたゞ感激のほかありません、一死御奉公申上げるのは勿論ですが、今後は同病で更生した人々と口成同志會を組織し同病に苦しむ人々をなくしたいと思つてをります。

應召の喜びを
永井先生宛西村君の手紙
(原文のまゝ)

先生何と云ふ吉報でせうか。愚輩が又信じてゐます口成同志會の皆様方が待つて下さいました、眞赤な血の色の名集令状を受取つたのです。十八日夕餉が済むと同時に熊本より「セウシウキタ〇〇ヒ〇〇〇ケンニウタイ、スエキ」の電報に會つて味はつた事を知りませんでした名譽のほどばしりがぐつと胸に込み上げあゝこれで盡して頂いた永井先生にも喜んで頂けるかと歡喜心が溢れました。會ふ友々組員の驚く顔を描き切りにして工場との手續きする氣持これ又一生に一度は味はねば日本男子と云はれぬものだとも感じました先生どうして、私達の成長時代に活躍されたんですか、絶好の機会に生れ合はせ、先生に御縁になつた幸福さ何ものにも替へ難きものです、きつと口成同志會の皆様にも喜んで貰へる事と思ふとそれが何よりの贈り物かも知れません、そして少しでも口成同志會の方々に一大勇猛心を奮ひ起す所がありましたら満足です。若しも戦線の花と散りましても御稔威萬歳、將又永井先生萬歳をきつと叫んで見せます。

眞今願る身位の方は元氣です。極寒を突く頑張りの方、勿論腕に覺はあります。

父母姉妹皆喜んで呉れました。夫までが知らぬ仲でも尾をよつて飛びついて來ました。空は勿論天氣晴朗巢立つ際から運のよい事ばかりです

〇〇縣〇〇部隊に入隊です(陸軍工兵)〇〇日午前七時新生の意氣に燃えて出發の豫定です。—後略—



感激應召せる西村君

前略御免下さい

口成同志會々則

- 一、本會ハ大阪帝國大學醫學部齒科教室ニ於テ口蓋破裂ノ整形手術並ニ發音指導ヲ受ケタル者又ハ其ノ父兄ノ有志ヲ以テ組織ス
- 二、本會ヲ口成同志會ト稱ス
- 三、本會ハ齒科教室諸先生ノ徳ヲ永ク恩ブト共ニ更生ノ意氣ニ燃エテ發音訓練ハ勿論、社會進出ニ際シテモ五ニ相援ケ相勵マシテ國家有用ノ志ヲ養フヲ以テ目的トス
- 四、本會ハ本部ヲ便宜上大阪帝國大學醫學部齒科教室ニ置ク
- 一、本會員ハ事情ノ許ス限り屢々本部ニ出入シ新會員ノ發音指導、激勵ヲ計ルモノトス
- 二、本會ハ一年一回ノ總會ヲ開キ（成ルベク夏休暇ヲ利用）發音上達並ニ親睦ヲ計ルモノトス
- 三、會誌ヲ發行（春秋二回位）シ會員相互ノ連絡ニ資スルモノトス
- 四、役員若干名ヲ置キ役ヲ分擔スルモノトス
- 五、會費ハ入會時金拾圓也ヲ徵集シ當分ノ期間ノ諸費用ニ充ツ（但シ該金員ノ保管ハ便宜上之ヲ本部ニ依託スルモノトス）

口成同志會細則

- 一、手術前なるべく前より營養素（魚肉、牛肉、鶏卵等は勿論の事、新鮮な果物、野菜等）を充分攝取し、日光にもよく浴し、適度の運動を行ひ體力を増進しておく事。之により手術の成績がよくなりま
- 一、齲齒があれば早く手當し、口腔清淨をよくする習慣をつけおく事
- 一、看護人は術前に看護に必要な準備をなし置き術後狼狽して患者を不安ならしめざる様注意する事
- 一、術後は所定の含嗽劑で屢々含嗽を行ひ特に口腔内を清潔ならしめおく事
- 一、術後當日は晩茶位を攝取し、翌第一日目よりは果汁、牛乳、重湯野菜スープ類の流動食を、翌々第二日目よりは粥、果汁オロシ、野菜物一切、魚肉、牛肉、鶏卵等のすりつぶしたるものを攝取し漸次硬き食事に移行し營養の恢復を計る事
- 一、術後は醫師の許可あるまで絶対に言語を發せしめざる事、その爲箆談を術前より稽古しておく事
- 一、術前、術後を問はず朝夕吸入を行ふ事
- 一、術後咳の發生は術後の換後に關係深き故、咽喉粘膜を刺戟させざ

今後手術する人の爲め

手術前後の注意二三

(永井先生より)

- 一、術後口腔内の温度を高めおく事
- 一、術後口腔内より血液を混ぜる唾液分泌増加する事あるが故に綿華又は紙片にて之を拭ひ、手拭等に枕の汚染せざる様顎下部に敷き置く事
- 一、術後患者をよく安眠せしむる様注意する事



念記の日常成結會志同成口

感激の挨拶

會員 松原 留吉

(六月二十日口成同志會結成の日)
發起人を代表致しまして一言御挨拶を申し上げます。先日御案内状を差し上げました所公私共に御繁忙の折柄此會結成の爲め多数御参集下さいました事を厚く御禮申し上げます。

抑々此會を作る動機は我々同志の者が今迄極めていた聲の世界より、阪大齒科學教室の先生方の一方ならぬ御勞苦の御骨折により、音聲を授かり、發音の御指導により光明の世界に生れ變りました。それ等有志の者相寄り、「永く先生の徳を思ふ爲に會を作つては」、との議が起り永井先生に御相談申上げた所先生も非常に御賛同下さいまして只今結成寸前にあるので御座います。

此の會の目的は我々同志の者を一人でも多く此の會に入會せしめ、一人でも多く全快に導き手術後の患者には我々先輩が發音指導の御手傳をなし、今後社會進出に際し相共に勵まし合つて國家に御奉公しようと云ふのであります。又當齒科學教室に於かれましては一層御盡力を御願ひ致しまして我々同様な不幸な患者を日本より否世界より全部救つて戴きたいと希望申上げるものであります。

私は久しい間胃葉の出ないのを苦にして醫學の進歩した現在に何故全治する事が出来ぬのかと心私かに悩んで居りました所昨年十月大阪朝日新聞に「口蓋破裂者の發音に成功」と大きく記事が出ましたのを見て私の胸を強く打つたのであります。早速新聞を懐に阪大齒科教室に飛込んだのであります。入院は十二月三日

で同五日永井先生の手術を受けました。手術を受けまして全快までの経過は略しまして全快前後の體験を少しく話させて頂きます。

手術前は食物を食べるのに非常な苦心を致しました。美味さうな「握りずし」も一口に頬ばるとすぐ鼻口に抜けます。夏の飲物カルピス、ソーダ水を麥稈で美味さうに吸つて居られる人をどんなに羨ましく思つた事でもせう。我々には吸ふ力がありません。

それが如何でせう、手術を受けました今日では「コーヒー」も「コッブ」に口づけで頂けます。勿論麥稈でソーダ水も美味しく頂けます。勿體ない話ですが腰轉んで新聞讀み乍ら給玉も食べられる。食事も心配なしに頂け今迄味はへなかつた美味しい味は味は自由な形で頂ける様になり人生の幸福をしみんと感じてゐる次第であります。

私が退院しましたのが十二月末日でそれ以來夜となく晝となく練習に勵み正月も元日も有つたものでなく血の出る思ひで發音練習を續け今日では胃葉に不自由は致しませんが大だく普通人と變らない様に頑張る心算であります。以下略

第一回總會素描

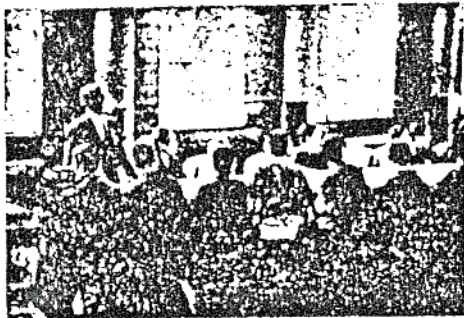
(八月二十二日)

今日の總會をどんなに待った事か何十年來の曇りと云はれる酷暑の中を會場たる阪大病院四階講堂に集る會員並にその父兄七十餘名、來賓として齒科學教室から永井先生、中郷先生、川勝先生それに永井先生の御夫人令息令嬢も御参列頂いて會員の感激は一入新なるものがあつた。

定刻一時過松原氏司會の下に第一回總會が開かれ、國民儀禮の後、松原留吉氏別項揚載の如き開會の辭あり。次いで齒科學教室先生方の御代表として弓倉醫長先生の御祝辭を頂く管であつたのであるが、醫長先生には多年の御研究が結實し、滿洲、支那に於ける學會の熱烈なる招聘に應ぜられ講演脚と彼地に於ける特殊施設御視察の爲滿支方面に去る二十日御出陣になつて御不在中なので、永井先生から御祝辭を頂いたのである。先生は自らのあの御手腕を誇られる事なく只謙讓に手術の成功を両親の愛情と先輩の努力に基く現代醫學の賜なりと仰せられ、手術によつて聲を得た者は發音の上達に努め、進んで同患の者を導き邦家に役立つ人となれと訓へられ、我々の此同志會の成長を心から喜んで下さつた。

次いで會員並父兄總代で平松重太郎氏が會員を代表して別項の如き謝辭があつて會員の演出に移つた。

朗讀が始まる。詩が吟ぜられる。唱歌が歌はれる。「ハーモニカ」の獨奏がある。皆朗らかな顔が輝いてゐる。無聲の園から聲の世界の光明に更生した數が一堂に爆發した様な情景である。福島さんの「タンポポの花」の朗讀は發音は元より内容に我々會員の不屈の精神的意味が含まれてゐる様な感じがして一同を感激させた。この情景に聲を授けて下さつた永井先生始め教室の先生方も心から喜んで下さつた様子である。又木日出席して立派に朗讀した會員の手術前に録音した「レコード」に聞き入つて今昔の感を新にした。中郷先生の「アリアン」の唄は堂に入つたもの而も「私は朝鮮人では



總會當日の情景



總會當日の情景

ありませんと断られて會員を數ばせ、川勝先生も「ボルガ」の舟歌を唄つて下さつて楽しく歡びの中に時を過ぎた。

次いで日本映齒科學研究所の映齒を観せて頂いた。幼き會員は漫齋に興じ、大人はドイツ女性の鏡後の活躍状態に感を深くした。

此の間學術映齒として本日の會の模様や會員の挨拶演出の一部を「口蓋破裂の整形手術」なる「トーキー」映齒に映寫された事を附記する。

かくて明年の總會に發音の一層上達を望み、先生の御恩を感謝し合つて和氣藹々の中に感激の第一回總會の幕を閉じた。時に午後五時三十分

謝辭

會員 平松重太郎

(八月二十二日第一回總會席上にて)

本日口成同志會第一回總會の開催に當りまして、懐しき齒科教室の先生方多數御参列下され、且つ只今は永井先生から御鄭重なる御祝辭を賜り、厚く御禮申上ります。お蔭をもちまして本會は口成—口蓋破裂の手術成る—口蓋成就—更生等と意味深長なる會名をもちまして、茲に逞しき發足を致すことになりました。

或病院の被手術者が喜びの餘り會を致したといふやうなことは寡聞にして未だ嘗て耳にしたことが御座りません。おそらく此種會合の嚆矢でせう。

此會は全會員口成の感激に燃えて止むに止まれぬ精神から自發的に入會を申出、下から盛りあがつた會合なので、先生に對する純なる感謝の贈物なのです。

全會員の姿を御眼にかけた希望でしたが、色々の事情で缺勤者がありました、けれ共精神的には五十餘名の被手術者が打揃つて出席してゐます。

口成の日を迎へるまでは被手術者は勿論父兄一同はものいへぬ悩みが際でも覺めても臨裡を往來し、悲劇の一步手前まで進みしこと幾度か、各地の病院廻りして、何度か血涙を流したことでせう。然るに昨年の秋阪大のものいへぬ人生に言葉を贈る

手術が文部省學術研究會から「これこそ世界に誇る研究業績」と折紙をつけられたことを聞き「神の御恩み」と飛びたつ思ひで早速教室に永井先生を訪ねてお願ひし、入院僅か一ヶ月で全治、永の苦惱もさりと夢のやうに拂拭されました。神技とは眞にこのこととせう。「うまいくいつた」と仰つて頂いた時のうれしさ。「お、今完全な體になつたのだ。友達にも嘖はれぬ體になつたのだ。これからは一生懸命に努力して立派な皇國民となり、先生の御恩に報ひねばならぬよ。」と堅く抱擁めて子供と共に歡喜に胸を躍らせ「皇民吾」の念が勃然として起り、不知不覺裡に天皇陛下の萬歳を三唱したものです。今あの日の感激が生々しく胸に浮ぶ。私共は先生に救つて頂いたのです。

然しながら「嬉しさ」は未だ、全部味つてゐない。今後の生活に於て事毎に「ア、ヨカッタ。」と感じそして感謝の念は益々深まり、生涯潜在意識となることとせう。

口成同志會は「先生有難う御座いました。口成—更生しました。」と今後幾久しく繼續し、更生の過程を御覽に入れ、先生の御指導を仰ぎたい念願で御座います。

最後に弓倉先生、永井先生初め教室の諸先生ほんとに有りがたう御座いました。愈々斯道に眞摯敢闘遊ばされますやう切にお祈り致します。

更生の歡・感謝の聲 (一)

音 信

會員 西村 一路

新緑の候同病の救に御努力せられる先生のお姿を毎日想ひ浮べて居ます感謝に充たされた私の胸、喜び様が無い程です。……中略……

歸郷二日目に幼年時代からの友が軍屬で戦地へ發つと云ふので見送りに行きました。……

やがて汽車が動き出すと、思はず私が「〇〇君萬歳」と叫ぶと有難や他の見送りの人々も續いて「萬歳」を叫んで呉れました。この時の嬉しさ、筆舌に盡し難しとはこの事でしょう。後の氣持の晴々したのに長生の思ひを一入感激して先生の御恩を一生忘れる事が出来ません。

先生からサインして戴いた「新生の意氣に燃えて」と云ふ文字に奮起言葉の練習に餘念がありません。……後略……

西村 一路

前略……
私も二月月足らず故郷にて毎日愉快に過ごさせて頂きました。見逢へた蘇生した氣分が自分にも判然と判ります。こんな嬉しい事はありません。……中略……

それから先生に迄期待して頂いた私の徴兵検査去る十四日第二乙種で合格しました。私にとつては夢の様

な喜びです。少し重い近視眼と、不思議にも入院中よりも衰へてゐる身體が功を奏しませんでした。が一番嬉しかつた事は他に何一つ注意を受けず事なく受験し終へた事でした。以前の姿で受検した時の事を思ふと雲泥の差の心境です。これも先生の御蔭と厚く御禮申上げます。……後略……

會員 隈部 恭雄

……前略……
退院歸郷の途熊本で西村さんの所に立寄りしました。西村さんも小母さんも大變喜んで下さいました。私もこんな嬉しい事は、生れて始めて味ひました。これも永井先生の御恩と感謝して居ます。同じ喜びでも虫歯を治療して頂いた喜びとは全く異つた更生の喜びです。永井先生の御恩を何時までも感謝致し、先生の恩徳を偲び、先生の御教訓を守つて言葉の練習を續けます。……中略……

又兵隊にも入れないと断念してゐましたが以前と異つたこの身體を随らへて頂いたのだから再来年の徴兵検査までに立派な丈夫な身體を作り上げきつと入隊出来る様に致します。……後略……

會員 大島 小鶴

……前略……この度先生の有難いお力によりまして他の人々と同様に日々を感謝に満ちた生活をさせて頂いて居ります。……後略……

會員 福島 房子

……前略……
神を怨み、親を怨んだ末に半諦めて居ました私、先生の御熱心な御研究により普通の人の様に何の心配もなく話の相手も出来、お喋りしても良く判つて戴ける様になりました。事たゞ嬉しさを一ぱいで御座います。自分を卑下し、少し憚んで居た昔に比べ今は晴々と毎日張り切つて過して居ります。暇にまかせて本を讀んだり雑誌等を讀んで、判つきり言葉の出来る練習をしてゐます。病氣の方は新鮮な空氣と豊富な魚と野菜とに恵まれ、すつかり健康になりました。あの長い顔が少し丸くなつた様に思はれます。……後略……

會員 雜賀 明

嗚呼、美しく嬉れしく半日を送つた八月二十二日は僕達の生命の總會であつた。僕は只美しく嬉れしく送つた。而し此の生命を得る以前の僕達の様な氣遣な人はまだ居るでせう。其人達の事を僕は熟々後から思つたのです。今すぐにも其人達を呼んであげたい位でした。僕は先生が居られなかつたらこれから先を悲しみと呪ひで送らなければならぬと思つた時は、ほんとうに先生は僕達の生命の親であると有難く思ひました。感謝の心で一ぱいであります。

感謝の挨拶

會員 松原 留吉

(八月二十二日第一回總會席上にて)
第一回口成同志會總會にあたり殘暑酷しい折柄、齒科學教習諸先生並に父兄の方々に於かせられては公私御繁忙の折にも拘らず御來場下さいました事を厚く御禮申上げます。
「大東亞戰眞只中に去る六月二十日齒科學諸先生、父兄の方々の御盡力に依り雄々しく口成同志會なるものが生れ、今茲に第一回總會を開くと云ふ事は何たる喜ばしい又楽しい事では御座りませんか。かうした會を私共が持つを得ました事は私共同志者に対する齒科學諸先生の眞摯なる御研究と御苦勞と醫術並に貴い人間愛によりまして御救ひ下さいました有難い因縁であります」

國家の使命に感激しまして不肖の申述べます感謝御禮の聲は今に全日本のだとつて諸先生に御答へ申上げる事と固く信じて居ります。
尙又御關係諸先生の御來臨を賜りました事は私共の最も感謝し感激致してゐる所でありまして我々の如き全快者及び全快途上にある會員以外に對する偉大なる救済の福音であります。茲に諸先生御來臨の下に多數會員並に父兄歡びの間に、發音並に言葉の發表台とでも云ふ様な會合が出来ました事はほんとに嬉れしい事であります。發音の不充分な方は來年の總會には立派に言葉が出来て今

日以上に諸先生方に喜んで頂く様上達に努力下さい。

長くも大詔煥發あらせられてより既に九ヶ月になります。大東亞戰爭が大稜威の下赫々たる皇軍の武勳によつて未曾有の勝利を拍して居ります、我々も分に應じ所を得て皇國に奉公するの時は只今であります。中略

會員各位は産業戰士の方は少いと思ひますが學生、青少年の方が多く普通人に互し御奉公が出来る様にして諸先生の御恩に報い、父母の恩に應へ得る様に我が口成同志會より多數の立派な人が多く輩出される事を御祈りして御挨拶と致します。
附記
「」の中は「口成同志會の整形手術」トーカーに録音された部分であります

隨 筆

會員 平松重太郎

「サイト サイト サクラガ サイト」永井先生言語矯正の一時。何と思出多き一節だらう。そして何と親しみ深い一動だらう。
意外には粉雪がチラ／＼としてゐるのに、先生は汗を流し、聲を潤らして一心不乱だ。
こんなに尊い姿が又とあらうか。あゝ有難い事だ。

更生の歡・感謝の聲 (二)

音信

會員 磯上 爲彦

口成同志會の一員として今迄出なかつた聲が出る様になつたと云ふ大きな喜びを會報を通じて會員の皆様にお傳へする事が出来た事は私としまして誠に嬉しい次第でありませぬ。思へば幼少の頃から此の病氣で

になりました。此時の氣持は「天にも昇る心地」と云ふのであらうと自分で只々喜んだ事でありました。會員の皆様には私が更めて云ふまでもなく共通の喜びであると思ひます。

今や我等の前途には洋々たる希望の光が輝いてゐます。私共は現在の發音状態に満足せず、一層練習を積んで完全な發音をする事が永井先生

手術室先生の御住所

弓倉 繁家

府下豊能郡箕面村字半町四二ノ五六(阪急櫻井五番通三丁目)

永井 巖

府下豊能郡箕面村櫻ヶ丘樓二九(櫻井驛下車北約三丁目)

中郷 安正

市内西區南堀江二番町三六

川勝 賢作

西宮市下新田甲子園口一七五

山本 勝

尼崎市尾濱竹原町三四四

日比野 勉

市内住吉區昭和町中五丁目二八 今村方

福田 清彦

明石市鍛冶屋町

三好 敏平

西宮市甲子園五番町

西村 五郎

市内旭區赤川町四丁目 中村直高方

一生治らないものと思つて居りました。電車に乗つても行先が云へぬ爲に車掌に何度も聞き返へされた上乗替券を貰はずに乗替驛で下車して行先まで歩いた事が何度もありました。かゝる時泣くにも泣けず自分の不幸な運命を呪ひ人間を呪ふ様になりました。

幸此度永井先生初め諸先生の御力によつて一生治らぬもの、聲の出ないものと諦めてゐたその聲が出る様

す毎日不自由な事夥しく、或時は恥を忍び、又或る時は涙の流れる事さえ多々有りました。毎日通學して教室で先生への答にも胸中の思ひが充分貰へないで何事も控へ目になり只々身の不幸を歎くばかりでありました。

それが手術を受けてからは現在下手ながらも人並に言葉が使へます。この喜びは例へ様がありません。過去の苦しみを思へば夢の様です。これ皆永井先生始め齒科學教室の諸先生より私達への賜と感謝して居ります。

會員 大島 小鶴

今日の私は希望輝く我が行手いざや勵まん もろ共に

待望の嬉しい様な恐い手術が済んだ。これさへ濟めば一度によくなると思つてゐた私は完全に近づくまで随分と道程のあるのに驚いた。この道を一步一歩進んで行くのに大變な努力を要する。日々永井先生が御多忙な御身體を私達の發音練習を一生懸命御指導下さる事は毎も乍ら有難く感謝してゐます。幼い子が先生の口を真似て練習してゐるのを見るといぢらしくて何とも云へない氣持になる。同時に同病相憐れむと云ふ言葉がびし／＼と胸を打つ。私も一生懸命練習してゐる心算だが、あまり上達しないのを面目ないと思つて居ます。始めは全然聲さえ出ないのに情ないやら齒痒いやらで歸へる途

中涙ぐみ乍ら歩いた事も度々あつた自分でもこんなに思ふ位だから先生も随分齒痒く思召した事と濟なく思つてゐます。而し現在では他の人から手術の事等尋ねられると私は其度に答へます。「手術は辛らかつたですが今はその何倍かの喜びで一ぱいです」と。これは練習の結果現在聲が得られた。よく發音出来る様になつたと云ふ自信が得られた喜びからです。けれどもまだ／＼これからだもつと／＼頑張らなければならぬとして一人前にならなければならぬ。

何事も根氣よく行り抜くと云ふ決心が最も大切である事を教へられました。こゝまで仕上げて頂いた先生の御厚恩を深く謝してゐます。

會員 岡田キヨミ

此の頃は發音が判り易くなつたと誰でも言つて呉れます。その度に私は先生に感謝してゐます。

小さい時は自分の發音が悪いとはよ／＼學校に入つて見ますと、だん／＼言葉の正確な事が判つて來ました。授業中も皆が笑ふので話すのが嫌になつて來ました。皆の様に正しい言葉を出して見たいと何度思つたかわかりませんでした。

自分にも判つて來ました。其時はほんたうに嬉しく涙が出ました。これはみんな先生のお蔭だと思ひます。先生が神様の様に思はれます。生れてからこんな嬉しい事は此度が始めてあります。これからもつと練習して上手にならうと思つて居ます。そして少しも恥しくない正しい言葉で話が出来る様に、毎も朗らかな氣持で勉強して行かうと思つてゐます。

行くぞ口成同志會
會員 西村 一路
(一) 東亞の空に 雄叫びて
勇み建てり
吾が口成同志會
不朽の鐵塔 それ守れ
この胸中で 手を組んで
(二) 過ぎにし苦勞も 懐かしく
よくぞ生れた
吾が口成同志會
あの感激で それ守れ
この胸中で 手を組んで
(三) 銃も執つたぞ 魔の空の
暗雲突け／＼
吾が口成同志會
不倒の意氣で それ守れ
この胸中で 手を組んで
(四) 見よ新生の あの月に
友も美はし
吾が口成同志會
明日を待つて それ守れ
この胸中で 手を組んで

永井先生の手術を受けてからは入院中種々正しい發音の練習をして頂きました。毎日練習してゐると判つてきた喜びを出せる様になつたの

(終)

更生の歡・感謝の聲 (三)

音 信

會員 篠川 精一郎

あゝ私は蘇生したのだ。
可愛らしい花が咲いてすべてが生々とする楽しい春を迎へた様なものです。大暴風の大洋を乗り越え乗り越えて遂に憧憬の島に到着した様なものです。

口腔を手術する前はどんなにか人間を恨み呪つたことぞうか。
「社會の人々が皆私の様な發音であつたらいいのに」とさえ僻んだものでした。群衆の前でものを云はうとしても何か胸が締めつけられて居る様な氣持になり、發表しようと思ふ事も云へず、殊に小學校時代に於いて知つてゐる事さえも云へなかつた事は残念でたまりませんでした。

物を買はうとしても口では相手にわかりません。それで買はうとする品物に對して指をもつて指し示す始末でした。友達によく侮られました。残念でくやしくて心で泣きました。
私はこの様に暗い人生の道をシヨボシヨ歩いて居たのです。
何故この様な身分に生れて來たのかと時々思ひ出しました。そして神様を恨んだ事もありました。而し永井先生の手術を受けて以後は本當に暗い地下道から明るい道に出て歩むことが出來たのです。憂鬱より喜びと限りない希望に轉じたのです。

常に天下を平定した様な思です。私の喜びと希望は宇宙のやうに無限です。私の心は嬉しさと永井先生に對する感謝の氣持で一杯です。何と云つて御禮を申上げてよいかわかりません。未知の人と話をして親しくなつた時の嬉しい氣持は幾千卷の書物にも書き得られません。

永井先生はお國の寶だと思つて居ります。若し永井先生が居られなかつたら私は今猶悲しい人生の道をトボ／＼歩いて居たららうと思ふと又しても永井先生の御恩が思ひ出されます。この上は立派な明るい一人前の人として口成同志會の爲に萬丈の氣を吐かうと覺悟してゐます。

會員 隈部 恭雄

日月流水の如く懐かしき阪大を別れて、早や五ヶ月の月日も夢の如く過ぎ去つて了りました。思へば三月入院以來約八十日間の懐かしい思ひ出をあとに阪大を去つて早や、肌寒き十月となつた。永井先生の御恩は何時までも忘れる事が出來ません。振返れば十八年の間自分の境遇はほんとうに世間狭いものでした。

小學校以來本一つ讀まされた事無い自分であつた、今思へば諸先生の御親切は忘れられない、永井先生の記事の載つた新聞を見た時は、嬉しいやら感謝の氣持で胸一杯でした。先生のあの手術、僕は今まで何

よりも一番有り難く思ひます。

永井先生、どうか何時までも阪大に留まつて居て下さい。僕は、實社會へと乗出して行き、新生のスタートなので、どこまでもねばり強く、新生の希望に進んで行きます。これからは荒波を乗り越えて最後まで頑張つて最後の勝利を得る事が出來ませう、必ずしも偉人とならなくても良い。正しい道を進んで、商業を志すなら、日本一の商人に、農業に従事するなら最後に日本一の百姓となる事で満足すべきであると思ひます。それに険しい山を登るやうに一步步踏みしめてどんな困難に出會つても頂上に達する覚悟が必要と思ひます。僕も最後まで頑張つて真直に進んで行きます。あの堂島川の水の清きほとりに聲え立つ阪大の屋上より、四方を見渡せば彼方大阪灣を眺め、近く大阪驛、大阪ビル、大阪ホテル等を望み煙に包まれた大阪は僕の第二の故郷とも言へませう。

今は阪大にての友、西村君、篠川君三人で固く詰ひ合つて勵まし合ひ何時までも、消えない友として永遠に永井先生の御恩を忘れない友として進んで行きます。

最後に遠く滿洲の地より口成同志會の皆様御健康と御幸福をお祈り致します。口成同志會の御發展をお祈り致します。

永井先生宛西村君の母堂よりたいくうれしさが胸いっぱい御さいます
祝宴のさなかに先生と同志會からの祝電を受とりました今朝九時熊本驛出發もうすぐ門司につきます、父が送られないので私が代つて親知の者に附添はれ今入隊の途中です、明日九時〇〇縣〇〇部隊に入隊で御さいます一路を一人前の人物にしていただきこれでやつと祭の家となりました、これ偏に先生のお蔭だと感謝致し居ります、入隊の上は一路邁進最後の五分迄がんばるとはりきつてゐます。どうぞ先生およろこび下さいませ——中略——

先生に感謝の氣持が此の紙にあらはせられないのが返へす／＼も残念で御さいます。——後略——

編輯後記

◎阪大齒科教室の諸先生によつて更生した歡びと感謝に一同の心が燃えて口成同志會が成り立つた。御互の心の契りにも亦同僚の方々にこの歡びを御知らせする爲にも、この會の内容を會報として御配らしたいとの會員の希望が益つて漸く會報第一號を發行する運びになりました。

◎お忙しい中を貴重な御時間を御割き下さつて丹青醫長先生並に永井先生の玉稿を頂いた事は我が會報に一段の光彩を放つものとして謹んで感謝し、會員もよく熟讀して先生の御苦心と御慈愛とに心からの敬意を捧げませう。

◎第六頁の「今後手術する人の爲に手術

前の注意二三」は、永井先生の御親切なる御注意であります。新しく手術を受けられる方は熟讀先生の御努力に協力しなければ申れない事でありませう。記して先生の御親切に感謝致します。

◎本誌の第一頁「口成同志會報」の題字はこれ又永井先生の御揮毫を御願して得たものです。併て御多忙の先生をお煩はせした事を御詫し感謝致しませう。

◎本誌の體裁や編輯方法は甚だ拙なものでありましたが不馴れなもの、編輯と御許し下さい。書信等につきまして全文を掲げ得なかつたり、多少訂正させて頂いた點がありますが、紙面の都合等で止むを得なかつたので悪しからず御許し下さい。

◎運刊の點も編輯つひ多忙にまぎれ申譯ない事ですが御許し下さい。

◎本會報編輯中に會員西村君の應召の朗報を得ました。會員一同心から君の武運長久を御祈りしてやみません。それ等の記事を採録し得ました事は本會報の意義を一層明確ならしめたものと存じます。

◎今回の會報第三號には第二第三の西村君を報告し得られる様に祈つて居ります。

◎會員の大島小鶴女史から金巻拾圓也を我が口成同志會に御寄附がありました。今後會を發展せしめる爲のこの種特志の御寄附を歓迎致します。

◎同患の方にこの歡びを知らせる爲、本會報御入票の方は郵券四錢同封同志會宛御申越し下さいれば多少残部がありますから御送り致します。

(編輯子)